

# いつでも誰でもどの教科でも学べるN I Eの実践

～継続からステップアップへ 鶴戸小中学校の取組～

日南市立鶴戸小中学校  
教諭 中岡 千佳子

## 1 はじめに

「なぜ表現力が求められているのか」。次世代を生き抜く児童生徒にも、私たち教職員にも必要不可欠となった「表現力」。大学入試制度の記述式への大きな転換やA Iの台頭、また就職活動のエントリーシート等、社会全体が培ってきた知識・技能をいかに生かせるか、また他者と協働しながらよりよいものをいかに練り上げてくかが求められている。「新聞はどのような力を持つのか」。新聞は、学校と地域・社会とを結びつける役割を果たしている。新聞を通して、児童生徒は社会で求められている力を知り、地域に貢献できる生き方を学ぶ。そして、何よりもこれからの時代を生き抜く情報選択能力を身に付けるのである。言うまでもなく、教職員自身も身近なことや社会に目を向けるという意味で、新聞を読むという意識改革が必要である。それこそが、宮崎県が求めている「学び続ける教職員」にもつながるといえるのではないだろうか。

日南市の北部海岸沿いに位置する鶴戸小中学校は、小中一貫校として7年目を迎えた小規模校である。全校児童生徒は41名で学校行事や総合的な学習の時間「鶴戸ふるさと学」にも学校全体で取り組んでいる。また鶴戸地区全体が、昨年10月に国の名勝「鶴戸」にも指定されたばかりである。本校におけるN I Eの6年間にわたる継続実践を報告したい。

## 2 N I E実践の歩み

### (1) 概要

平成24年度	中学校国語科での実践（修学旅行新聞作成 小村寿太郎新聞作成） 宮崎日日新聞社：小川清一郎氏との連携授業（年4回程度） 宮崎日日新聞「若い目」への投稿
平成25年度	中学校国語科での実践（グループでのスクラップ新聞作成） 宮崎日日新聞社：小川清一郎氏との連携授業（年4回程度） 宮崎日日新聞「若い目」への投稿
平成26年度 独自認定校（1年間）	中学校国語科での実践（個人によるスクラップ新聞作成） 中学校学級担任による修学旅行新聞作成 小学校4年生国語科の新聞作成 宮崎日日新聞社：小川清一郎氏との連携授業（年8回程度） 宮日「若い目」への投稿 こども新聞への短歌、詩の投稿（現在も） 中学部全員で「新聞感想文コンクール」応募（3年間学校賞受賞）
平成27年度 ～平成29年度 平成29年度は独自 認定校（1年間）	元宮崎日日新聞社：小川清一郎氏との連携授業（年4回程度） 宮崎日日新聞日南支社長：俣野秀幸氏との連携授業 平成28年2月にN I Eセミナー授業 学校全体で「いっしょに読もう新聞コンクール」応募 「鶴戸本」製作から出版へ 平成29年N I E連携授業「鶴戸本号外新聞」（年2回）

## (2) 環境整備 (平成 26 年度)

各教室に新聞ラックやストッカーを整備し、いつでも好きな時間に新聞を読むことのできる環境を整えた。読んだ新聞を児童生徒がスクラップできるファイルも購入した。また、平成 27 年度以降も新聞購読を継続している。

## (3) 外部講師との連携

小川清一郎氏や俣野秀幸氏との連携授業は学校全体として大いにプラスとなった。専門家の指導をいただくことは教職員は当然のこと、児童生徒の興味関心を高めるうえでも大変役に立った。特に、小川氏との途切れることのない連携がN I Eを推進する上での原動力となった。また、中学校国語科以外でN I Eの活用を図れたことも大きな前進であった。

## (4) 校内研究での位置づけ

表現力向上を主題研究に位置づけ、その一手段としてN I Eの取組を掲げた。毎週金曜日の朝の読書を「N I Eの時間」とし、全校児童生徒および教職員が新聞を読む時間とした。また気になる新聞記事をスクラップし、ワークシートに要約文や自分の意見を書いてファイリングした。また、指導案にN I Eに関する項目を掲げたり、新聞記事等を使ったりする授業も全教科で試みている。

## (5) 日南市への発信

日南市の夏季休業中の取組に「処平塾」がある。国語科の学力向上の一環として平成 27 年度から 2 年間、N I Eに関する授業を小川氏と行った。日南市の中学校へ広める機会となった。

## 3 学校力でアウトプット

N I Eを深化させるには一人の力では限界がある。学校全体で共通認識し全員で取り組んでこそ浸透する。そして蓄積してきた力を評価してもらう場を設定することである。継続するためには、N I Eを通して何かを生み出す力、何かを発信する力は欠かせない。

### (1) 平成 29 年 2 月の宮崎県N I E公開セミナー

宮崎日日新聞社日南支社長の俣野秀幸氏との連携授業である公開セミナーを中学校国語科 8 年で実施した。教材は「ニュースの見方を考えよう」である。メディアの持つメリットやデメリットを理解しながら、これからの時代を生き抜く情報選択能力の重要性を考えさせた。セミナーを通して、新聞を読む習慣や表現力向上を担う資源となりうるかを協議し合うことができた。また、外部講師との連携の在り方を広める機会ともなった。

### (2) 「いっしょに読もう新聞コンクール」への応募

培ってきた表現力（要約する力や簡潔に意見を述べる力等）を客観的に評価できる場として、平成 27 年度から全校で応募している。全国の小中高各 5 校が受賞できる優秀学校賞を平成 28 年度に中学校、本年度は小学校が受賞することができた。この結果は児童生徒のみならず、指導している教職員にも大きな自信となった。

### (3) 「鵜戸本」製作

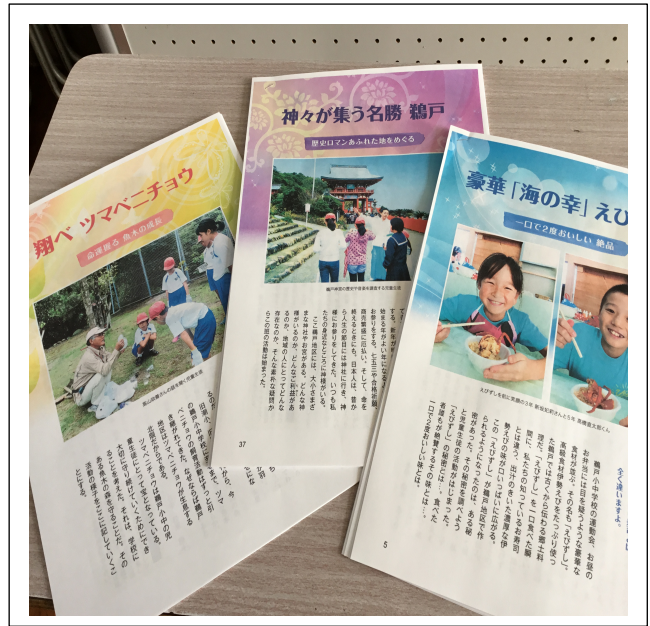
校内研究「表現力の向上」の集大成として「鵜戸本」を 3 カ年計画で出版することとした。まさしくN I Eで培ってきた表現力を発揮できる最高の機会である。誰が読んでも納得できる原稿の書き方、根拠となる情報収集の在り方、本として通用しなければならない構成力や文章力は私たち教職員の指導技術を高める場ともなった。

4 本年度の実践

本年度は鶴戸本出版を控えていることもあり、中学校国語科として原点に戻ったN I E活動に取り組むこととした。

(1) 「鶴戸本」出版

- ① 長期的・短期的な研修計画
- ② 学校力の向上（児童生徒、  
教職員相互の質的向上）
- ③ 学校と保護者、地域との協働  
（喜びの協働作業）
- ④ 地域や社会への貢献  
（キャリア教育）
- ⑤ 外部講師との連携  
（教職員一人一人の交渉術）
- ⑥ 実効力のある表現力の育成  
（社会に生きる表現力）



「鶴戸本」原稿

(2) 「鶴戸本 号外新聞」作成

- ① 連携授業の具体的計画 ② 新聞記事に関する理解（主見出し 袖見出し リード文）
- ③ レイアウト（タナ線 箱組 写真説明等）



「鶴戸本号外新聞」 ①



「鶴戸本号外新聞」 ②

5 成果と課題

(1) 成果

○ 学力向上

8年

平成29年度 みやざき学力テスト 県との比較	国語 A B +7.8 +6.6	平成28年度 標準学力調査 市との比較	国語 全体 基礎 活用 +5.4 +8.7 -5.5
------------------------------	------------------------	---------------------------	----------------------------------

○ アンケート調査

① 新聞購読家庭の割合 60%	② NIEを始めてから新聞を購読した家庭 6戸/24戸
③ 学校のNIE活動を知っている 90%	④ 新聞を購読していない児童生徒への質問 Q 学校に新聞があることをどう思うか。 学習に役立つ (45%) おもしろい (40%) うれしい (15%)

(2) 課題

○ 浸透させる力

- ・外部との連携を活用して楽しく行うこと
- ・校内研修の中に位置づけること

○ 持続させる力

- ・教職員が入れ替わってもできるように学校の教育活動の中に入れ込むこと  
(朝のNIE活動 新聞購読の手立て)
- ・テストや積極的な作品応募で実績を積み、手ごたえを味わわせること  
(教職員も児童生徒も)

<p>新聞毎日読もう 中学3年 男子</p> <p>新聞は古くから私たちの生活の中にありました。テレビやインターネットが発達してきたのにどうして新聞は多くの人に読まれるのでしょうか。</p> <p>私たちの学校では、NIEという活動を行っています。毎週金曜日に新聞記事を切りとり、その記事に対しての感想を書きます。この活動は、新聞と触れ合うことによって、学力が上がったなどの効果が出ているそうです。また「活字を読む事によって、脳の働きがよくなる」と国語の先生がおっしゃっていました。毎日活字と触れ合うことによって文章を正確に素早く読み取れるそうです。毎日届く新聞は、脳のトレーニングにももってこいなのです。</p> <p>新聞は、世の中の出来事を読み取るだけでなく、脳の活性化や文章を速く読み取れることから、学力の向上までつながります。中学生の中に新聞を毎日読むという人は少ないと思います。しかし、毎日20分、新聞を読んでみてはどうでしょうか。世の中の動きを知れ、脳の活性化、学力向上まで期待できます。僕も毎日読みたいと思います。</p> <p>【宮崎日日新聞 平成29年11月22日掲載】</p>	<p>NIE活動についての感想 (平成30年1月実施 アンケートより)</p> <p>わたしは、NIEをしらなかつたので、すごくたのしいです。NIEは、とてもたのしくてきりとるのがすごくたのしいです。</p> <p>わたしはNIEを大すきになりました。NIEはこんなにおもしろくて、たのしいんだとおもいました。</p> <p>いろいろなしんぶんがあつてうれしいなあとおもいました。</p> <p>NIEはたのしいじかんなので、うれしいです。これからもしんぶんをみたいです。</p> <p>【 小学校 1年生 女子】</p>
---	---